

エベネゼル緊急基金
出エジプト作戦



EBENEZER
OPERATION EXODUS

イスラエルの よみがえり



わたしはユダの捕われ人と、イスラエルの捕われ人を帰し、
初めのように彼らを建て直す。(エレミヤ33章7節)



イスラエルのよみがえり

国際



ニゲル・ウードリー
NIGEL WOODLEY
エベネゼル議長
ニュージーランド

聖書では、二つの種類の復活があると教えています。一つは、すべての人の個人の復活です。このことは、ダニエル書12章2節に書かれています。「地のちりの中に眠っている者のうち、多くの者が目をさます。ある者は永遠のいのちに、ある者はそしりと永遠の忌みに。」もう一つの復活は国家の復活です。聖書が国の復活について約束している国は、ただ一つ、イスラエルです。

エゼキエル書37章1節～14節には、干からびた骨の谷についての記述があります。これは、現在起こっていることを預言的に表しているものと言えましょう。個人の復活は、一瞬のうちに(第1コリント15章52節)に起こるのですが、イスラエル国家の復活は、現在何世代にもわたって起こっていることです。エゼキエルの記述においては、イスラエルの復活は、荒廃と破壊の中で起こります。これは、イスラエルが国々に散らされ、ユダヤ人に対する多くの暴虐と虐殺がなされ、そしてその最悪の状況としてホロコーストが起こりました。

1939年から1945年の間は、ユダヤ人にとっては、特に「死と破壊の谷」と呼ばれるような時代だと言えるでしょう。

しかし、預言者ホセアは、悩みの谷が望みの門となる(ホセア2章15節)と約束しました。ですから、



この荒廃した谷から驚くべき奇跡が起こるのを見るのは、骨と骨とが互いにつながり、その上に筋がつき、肉が生じ、皮膚がその上をすっかりおおうのです。そして、この集められた人々に再び命がもたらされるのです。

これが、エゼキエルの預言に表されたイスラエルの現代の復活の過程です。

1. 集められる骨：イスラエルの復活の過程を導くということは、骨がつながるということです。これはアリヤーの骨であり、ユダヤ人たちは何世紀もの間、国々に散らされ荒廃していたのですが、イスラエルの家と国に集められ一つとされることを意味しています。

2. 原動力：これと同時に起こっていることは、集められた骨が強められ、多くのイスラエルの指導者たちが、ホロコーストに関して「もう二度とこれを起こさせない！」と語っていました。ユダヤ人がホロコーストから一つ学ぶことができたとしたら、それは、「私たちは、自分たちの救いと安全のために、国際社会を信頼することはできない。」ということでした。預言者たちは次のように同意しています。

・わたしは足なえを、残りの者とし、遠くへ移された者を、強い国民とする。(ミカ4章7節)

・それでもう、しいたげる者はそこを通らない。(ゼカリヤ9章8節)

・あなたの手を仇に向けて上げると、あなたの敵はみな、断ち滅ぼされる。(ミカ5章9節)

これらが原動力となり、骨に筋がつき、その結果力強い国家となるのです。

3. 成長と発展の肉：何百、何千のユダヤ人の難民と追放された民が一度に帰還するとなると、新しく到着したユダヤ人たちを受け入れるための大規模な建築プログラムが必要となります。奇跡的に、イスラエルは非常に短期間の間に、この多くのユダヤ人帰還民のために、住宅、食糧、交通、職



業の提供をすることができたのです。これは、国家の電気、水道、コミュニケーション、下水道、道路交通の再構築でした。これは、古代からある都市、アケレ、アラド、アシドテ、アシュケロン、ベールシェバ、ベテ・シュアン、エイラット、エルサレムなど多くの都市を再建することでもありました。イスラエル国家が始まってから、68万以上の住宅（国全体の住宅の70%）が完成しました。森林化、農業、灌漑が大規模プロジェクトとなりました。

・今度は、彼らを建て直し、また植えるために見守ろう。・主の御告げ。・（エレミヤ31章28節）

・わたしはユダの捕われ人と、イスラエルの捕われ人を帰し、初めのように彼らを建て直す。（エレミヤ33章7節）

4. 認識の皮膚：皮膚というのは、個人の認識をするための、その人特有の覆いです。イスラエルの復活の最終段階の一つが、現在起こっています。イスラエルの神の目に、この人々が誰なのかを認識するということです。

クリスチャンがイスラエルを認識することが、現在起こっており、そしてそれが広がっています。イスラエルが世界によって認識されるということが起

こっています。

万軍の主はこう仰せられる。「その日には、外国语を話すあらゆる民のうちの十人が、ひとりのユダヤ人のそそを堅くつかみ、『私たちもあなたがたといっしょに行きたい。神があなたがたとともにおられる、と聞いたからだ。』と言う。」（ゼカリヤ8章23節）

三番目で最もわくわくする認識は、自己認識です。それはつまり、イスラエルの全国民が、自分が神様にあってどのようなものか、また、彼らの役割が国々の中でどのようなものを認識するということです。

5. 神様の息吹：今まで見てきたことはすべて、聖霊の大きいなる注ぎが世界が今まで見たことのない形で、イスラエルの民に与えられるということのしるしです。イスラエルのすべての民は、神様が彼らにご自身の息吹と聖霊を注がれる時に、生きたものとされるのです。これが、イスラエルの現代の復活を完成することになるのです。今日までこの大きいなる完成のためにイスラエルを導き続けている第一のステップは、骨を集めること、つまりアリヤーです。ですから支え続けていきましょう。

用語解説

アリヤー(Aliyah):

ユダヤ人が約束の地、イスラエルに帰還することを意味します。

ユダヤ機関(Jewish Agency):

1929年 C.ワизマンによって創設され、エルサレムに本部をもつユダヤ人の国際的機関。パレスチナにユダヤ人の本拠を設けるというシオニストの計画の対外機関。パレスチナへのユダヤ移民の監督、ユダヤ系経済組織の確立などに努める。

オリム(Olim):

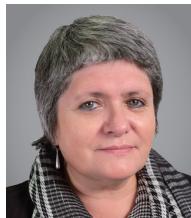
イスラエルに帰還するユダヤ人



ヤッファストリート
BY NAVOT MILLER
CC BY-SA 3.0



人道的支援



エリヤ・ワシュコバ
ELYA VASYUKOVA
モスクワ支部リーダー

支援がアリヤーを導く

長年の間、ロシアのエベネゼルによって行われた人道的支援プロジェクトは、ユダヤ人家族、ユダヤ人団体への扉を開き、最近では、ユダヤ人会堂への扉も開かれてきました。これらのプロジェクトは、ユダヤ人に対してクリスチヤンの愛を実際的な支援を通してあらわすものであり、彼らに対して愛をあらわす最善の方法となっています。

ロシアにある6つのエベネゼル支部は、様々な種類の人道的支援物資を配布しています。多くの子供や障害児を持つユダヤ人家族のために、食糧品ボックス、衣服、靴、薬品などを届けます。また、ユダヤ人の子供のための文房具や、春と秋のための子供のためのビタミン剤、ホロコースト生存者のための薬品や、ユダヤ人元軍人のための支援などを行っています。

私たちは、しばしば特別な必要のある家族に出会います。それで、食料品ボックスの提供とともに、彼らにアリヤーすることについても呼びかけます。私たちが、アリヤーについての聖書のみことばを分かち合う中で、彼らの心にアリヤーの種が植えられていき、しばしばその収穫を見ることができます。

ユダヤ人の家族に働きかける時、彼らにイスラエルで子どもたちが学習プログラムがあることについての情報も提供しています。その結果、種が芽を出し、多くの子供たちはユダヤ機関のナーレ及びセラプログラムに参加するためにイスラエルに行くのです。そして、多くの場合、その後彼らの親たちが子どもたちの後を追

ってイスラエルへ行くことになります。

また、障害児を育てている家族に対しては、薬品の支援をしています。この支援は、私たちの心遣いとともに、彼らにとってはとても重要な支援です。多くの子供を持つ家族に新しい洋服や靴や他の必要物資を提供することによって、彼らに大きな喜びをもたらしています。

シベリアやウラル地区といった地域では、冬には気温が-40°Cにまで下がります。そのような極寒の地域に住む家族にとって、冬靴や冬服を提供する支援は、非常に重要なものとなります。というのも、このような支援を受けた家族がアリヤーすることを決心すると、まずエベネゼルのもとに来てアドバイスや実際的な支援を求めます。なぜなら、彼らはエベネゼルチームを信頼できることを知っているからです。

ユダヤ慈善団体の指導者達もエベネゼルを友として信頼しています。長年に渡るエベネゼルの人道的支援はこのように鍵となる働きであることが認められています。

どうか、私たちが支援する家族がアリヤーする召しに応えることができますように、お祈りください。



目標に到達する

オルガの家族にはたくさんの子供がいました。私たちが彼らに初めて会ったのは、2013年のことでした。その時私たちは洋服や靴の配布をしていました。彼らはこれらの贈り物をとても喜んで受け取りました。なぜならこの家族には本当に大きな必要があったからです。彼女の子供たちが祝福されているのを見て、彼女自身も子どものように大喜びしていました。その後、彼女はその町に住むほかのユダヤ人の家族に連絡を取るためにつなぎ役をしてくれました。

私たちはオルガにアリヤーについて分かち合いました。そして、彼女の家族がロストフで行わられたユダヤ機関の帰還についてのセミナーに参加するための費用と、その後モスクワのイスラエル領事に面会するための費用も、エベネゼルが提供することができました。

オルガの長男はセラプログラムに、彼の弟はナーレプログラムに合格することができました。長男は、夢であったイスラエル国防軍で仕

えることができました。彼の弟も勉強を終えた兄に続いてイスラエル国防軍に入る予定です。オルガは息子たちのことを本当に誇りに思っています。

口 シア



レナ・グコバ
LENA GUKOVA
ソチ代表

写真:オルガの長男は、イスラエル国防軍(IDF)でとても幸せにしている

忍耐が報われる



クリスティナは、私たちが長い間アリヤーするように励ましてきた家族の娘です。ですから、この十代の彼女が、イスラエルのナーレ学習プログラムに合格したので、私の心は喜びと主への感謝でいっぱいでした。

この家族は黒海岸にあるソチ出身です。クリスティナがこの学習プログラムに入学志願をしたのは、私たちが彼らのもとを訪れ続け、人道的支援をし続けたことの実だと言えるでしょう。

クリスティナの両親は、自分の娘が約束の地に行くことができるまでに神様の御手があったのを見ました。クリスティナはエルサレムで勉強することになっています。このことは、家族のアリヤーにとっては最初の一歩にすぎませんが、10年間彼らと関わってきて、この決断を待ち望んで來たので、私はこのことを本当にうれしく思っています。

写真:家族の中で初めてイスラエルへ行くクリスティナ



予期せぬ報い!

ロシア



ラリッサ
LARISSA
アルタイ地区代表

ユダヤ人の子供達に文房具や制服や靴などを届けるエベネゼルの人道的支援のプロジェクトは、子供達の必要を満たす術のない多くのユダヤ人の家族にとって大きな祝福となっています。

このプロジェクトを通して、私たちはある家族の1人の年配の男性に出会いました。彼は、私たちがイスラエルへの帰還を励ましていると知ると、泣き出しました。彼の弟が何年も前にアリヤーしていたのですが、その後彼と音信不通になってしまっていたからでした。「彼を見つけるのを助けてもらえますか?」と彼は懇願しました。彼の子供達は二人とも彼を助けることができませんでした。なぜなら、二人とも聾啞者であり、孫たちは小さすぎるからでした。そういうわけで、私たちは彼の弟を探す助けをすると約束しました。

その後まもなく、イスラエルの関係者を通して、彼の弟の居場所がわかりました。そしてそ

の後、彼の孫の1人がイスラエルの学習プログラムのためにイスラエルへ発つこととなったのです。主は、すべてを通して働かれました。私たちは本当に感謝しています!



ロシア

家族の人生が変えられる



ニコライ
NIKOLAI
ピヤティゴルスク地区代表

アルコール中毒によって、ある家族はアリヤーできませんでした。しかしその後主が介入されました。私たちが初めて5年前にオルガに会った時に、彼女は夫のアルコール中毒が家族の経済状態に悪い影響を与えていたと言っていました。彼らにとっては本当に恐れに満ちた時でした。

その後、私たちはこの家族の子供たちに食料品支援をし始めました。この家族は、冬の間もガスヒーターのお金がなかったので、私たちは電気ヒーターと毛布を提供しました。その結果、私たちは友達になり、オルガは、いつかアリヤーしたいという夢があると語ってくれました。しかし、彼女の夫は帰還を拒みました。

その後何年も経ち、彼らの長男が成長して結婚しました。それから彼と彼の妻はイスラエルへ帰還することを決心しました。そして、オルガの夫はついにお酒を飲むことをやめることができ、状況は好転しました。そして遂には、彼がアリヤーすることに同意したのです。この家族は、今故郷の地でとても幸せに暮らしています!

オルガと家族が、眞の故郷に帰ることができたことをとても喜んでいます。



同じ日に祈りが聞かれる

ロシア極東の町ビロビジャン市で学校の新学期が始まるにあたって、私たちは多くのユダヤ人の家族に新しい学校の制服や文房具を提供する準備をしていました。

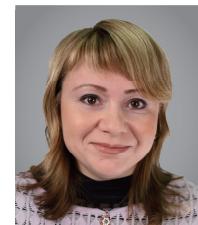
あるユダヤ人家族は5人家族でした。しかし、母親のナタリアは自分の乏しい収入では、子供達全員を養うことができない状態でした。ですから、子供達の学校に必要なものを一体どのように準備したらよいかわかりませんでした。ただ一つ彼女ができることは、イスラエルの神に助けを求めるのことでした。

彼女が祈ったその同じ日に、私たちは彼女を訪れ、支援を申し出ました!私たちが子供達に必要なものをすべてこちらで買って提供しますと言うと、ナタリアは涙を抑えることができませんでした。神様が彼女の祈りにこんなに早く答えてくださったことに、彼女は感動していました。そして、

私たちもともに喜びました!



極東ロシア



アリョーナ
ALYONA
ハバロフスク支部リーダー

夢を抱いて

イリーナは、8歳の時から、長年すでにイスラエルに住んでいる親戚がいるイスラエルへ移住したいという夢を抱いていました。彼女はイスラエルを2度訪れており、その夢は揺るがぬものとなりました。彼女はアリヤーしたいと願っていましたが、彼女の母親は医者をしており、ロシアでの仕事を離れたくなかったので、イスラエル移住を望みませんでした。それで、イリーナはさらに20年夢を見て、その間時間を有効に使い、ヘブライ語とユダヤの文化を学びました。

彼女は科学的な考え方(彼女は数学の教師でした)の持ち主でしたが、ユダヤ人であることの靈的な側面について探求することも始めました。彼女はユダヤ人会堂に定期的に通い、アブラハム、イサク、ヤコブの神を信じ始めたのです。

イリーナは、さらに、もっとユダヤ人らしい名前の「ベラ」に自分の名前を変えることに決めました。そして、遂にアリヤーする夢を果たすことができたのです。今彼

ロシア

女はエルサレムに住んでいます。そして新しい彼女の夢は、ユダヤ人の家族を持つことです!



イリーナ
IRINA
ノボシビルスク管理者

写真:イスラエルで夢がかなったベラ



アリヤーを祝う

ドイツ



ヨハネス・バーテル
JOHANNES BARTHEL
地区コーディネーター

「見よ。わたしは新しい事をする。今、もうそれが起ころうとしている。あなたがたは、それを知らないのか。確かに、わたしは荒野に道を、荒地に川を設ける。」イザヤ書43:19

アリヤーを支援することによって、神様が力強く働いておられることについての洞察が与えられます。今回初めて、ドイツの団体フライトで帰還するオリムたちとともに特別な式典が開かれました。

フランクフルトの中央のユダヤ会堂が、この式典のために部屋を貸してくださいました。ほとんどの参加者が家族や友人を招いて、ドイツでの最後の日をともに過ごしました。そして翌日は、ほとんどの家族のメンバーは空港に見送りに来ました。ドイツの新しいコーディネーターであるワインフライド・ロドルフによって導かれて、100人ほどの人が式典に出席しました。カレン・ハエソドから来たシモン・ソエサンが短い挨拶をし、その中で彼自身が、アムステルダムから何年も前にアリヤーした体験について述べていました。

私は、今までのアリヤー団体フライトの写真を見せながら、ユダヤ人がイスラエルへ帰還することの重要性について語り、またオリムが困難な状況下においても神様を信頼すべきであるこ

とを励ました。

メインのスピーカーであり特別なゲストで来られていたのは、ユダヤ機関の会長のナタン・シャランスキ一氏でした。彼は、彼自身がいかにしてロシアの収容所から解放され、ベルリン、フランクフルトへと導かれ、その後イスラエルへ帰還したいきさつについて述べていました。

15人以上のエベネゼルのボランティアも奉仕していました。3台のミニバスと6台の車を使ってドイツ中からオリムをフランクフルトまで連れて来ました。参加者たちは後になって次のように私たちに言いました。

「本当にいろいろとありがとうございました。私たちは、こんなにたくさんのドイツ人がユダヤ人を支援していることを知りませんでした。」

ドイツエベネゼルは、オリムにホテルでの一泊の宿泊を提供し、翌日に空港まで連れて行くバスも用意しました。この支援と祝賀会は、彼らのイスラエルへの帰還の旅を本当にスムーズに進めると助けとなりました。このような支援を可能にした皆さんの尊い献金と支援に心から感謝しています。また、フランクフルトのユダヤ会堂にも、この思い出に残るイベントのために扉を開いてくださったことを感謝しています。



大きな一步を踏み出す

その日は曇っていて、空は灰色でした。私たちは二組の夫婦と、十代の娘を持つマルティンがアリヤーするのを支援していました。パリのシャルル・ド・ゴール空港の外で彼らと会った時に、この二組の夫婦とマルティンとシルヴァンは、友達と冗談を言いながら笑っていました。

しかし、彼らは本当に幸せだったのでしょうか？何世代も過ごしてきたフランスでの生活を後にして、別の国でまったく新しい生活を始めようとしているのです。本当は、マルティンは泣いている娘を慰めようとしていました。私たちは自分たちにできることをして、彼らの荷物を車から下ろし、彼らに話しかけ、愛を表し、少しでも励まそうとしました。イスラエルには新しい生活が彼らを待っていると言って、彼らを励ました。どんなに素晴らしいことのように見えても、やはりフランスの家族が去って行くと

いうことには複雑な思いがあります。どうか、旅立つことを悲しんでいる人々のために、また主が約束の地において彼らを祝福してください。よろしくお祈りください。

フランス



ラシェル・プート
RACHEL POOT
パリ支部

喜びにあふれた別れ

米 国

「…彼らは、あなたの息子たちをふところに抱いて来、あなたの娘たちは肩に負われて来る。」(イザヤ49章22節)

最近、私たちは、主がアメリカにおいて私たちの前を進み、息子、娘たちがイスラエルへのステップを踏む中で主ご自身が彼らの世話をしておられるのを見ています。神様の心が動いているのを見ています。今回、10人家族が34の大きな荷物とともに空港へ行くのを支援した時、神の愛、ご計画、約束が成就するのを見ました。

はじめは子供たちは静かで恥ずかしがっていました。彼らは大きなきれいな目で私たちをただじっと見つめていました。私たちが彼らに愛と慰めと励ましを持って働きかける中で、少しずつ彼らはリラックスし始めました。そして、私たちが空港に着いて彼らを出発ゲートへ送った時には、「私たちと一緒に来るの？」と何度も私たちに聞いていました。出発ゲートへのステップは、喜びに満たされていま

した。エベネゼルチームは皆、このすばらしい日に深く感動していました。



キャシー・アルディノ
KATHY ARDINO
USAアリヤーディレクター

写真：この10人家族が持つ34の荷物



聖書を生きたものとする！

青年



ヨハネス・バーテル
JOHANNES BARTHEL
地区コーディネーター

14か国から来た50人の若者たちが、様々な希望と期待を抱いて、2017年エンゲージイスラエルのツアーに参加しました。聖書が、彼らの目の前で生きたものとなりました。神様は彼らの心の中で、永遠のみわざをされていました。

優秀なガイドと様々な場所での適切な聖書の教えがあり、多くの若者が人生が変えられた証をしていました。ツアーの間に、礼拝や祈りの時もあり、またイスラエルの人々や国にかかる実際的な体験もすることができました。

私たちは2018年のエンゲージイスラエルをさらに良いものとする計画をしています。このツアーでは、3本立てのアプローチで、イスラエルエンゲージの旗の元で、様々な体験を提供するつもりです。

一つ目の「探検体験」では、ネゲブの荒野、エルサレムの旧市街の通り、さわやかなガリラヤ湖などを探検します。深い教えや礼拝や静かな瞑想の時間を持つ中で、信仰が深められる体験となるでしょう。そしてたくさんの楽しい時間も過ごします。イエス様が歩まれた所を歩き、アブラハムが歩いた荒野でキャンプをしたりする中で、この探検体験は、必ずや人生が変えられる体験となることでしょう。

祈りと礼拝についてさらに理解を深める召しを

感じている人々には、「勇士体験」を通して、エリコの戦いのために礼拝者が導いて行ったように、あなたの手が戦いのために訓練される時となるでしょう。実際的な体験と、祈りと礼拝についての教えがあります。このツアーの中で、エルサレムから国境まで行き、地元の信者に加わってアリヤーのため、救いのために、また神の契約の約束がイスラエルと世界にあって成就され続けるように祈ります。

「開拓体験」は、エレミヤ33章7節の「わたしはユダの捕われ人と、イスラエルの捕われ人を帰し、初めのように彼らを建て直す。」に基づいて行われます。預言者たちは、イスラエルの子らがこれらの山々に帰り、これらのユダヤの町を建て直すのです。私たちは、ヤングアダルトのチームを連れてユダヤの丘に行き、イスラエルに住む開拓者が家を建てたり、植林するのを支援します。そこでをまくって、彼らとともに実際の働きをしていきます！

18歳から35歳の皆さん、どうか、この三つのどのツアーがあなたに適しているか、神様に祈り求めてください。そして、できるだけ早く予約をしてくださるよう、お願いします！



engage:Israel

18歳-35歳+

2018年

7月9日～
7月23日

新企画ツアーで、さらに
深みに進もう！

ソーシャルメディアで、さらに詳しい情報をご覧ください。

EbenezerInt: &

www.engage-israel.org

エンゲージ・イスラエルはエベネゼル緊急基金の主導により次世代の若者に預言の成就目の当たりにすることを通じて刺激を与えるためのプログラムです。



神様の導きはなくては ならないものです！

「あなたがたは、今までこの道を通ったことがないからだ。」(ヨシュア3章4節)という言葉は、現在の私たちの直面している状態を表しています。私たちの進む一歩一歩は、祈りによって準備される必要があります。そして、今まで遭遇したことのない状況に出会う時、私たちは聖霊の導きを待ち望まなければならないのです。

ヨシュア記にあるように、主はそれぞれの状況において具体的な導きを与えてくださるお方です。ですから、祈りと一致の土台と、へりくだつた心で主を待ち望むことは、ヨシュアの時代でもそうであったように、欠かせないことがあります。また、私たちは祈る中で、主が語っておられることについて、祈りのパートナーとコミュニケーションする必要があります。

あるとりなし手によるこの証は、そのことを理解することになる助けとなるでしょう。

ペカン果樹園は灌漑が必要でした。ですから、雑草や草が生えてくるので用水路の掃除を時々する必要があります。果樹園のオーナーがこの用水路を掃除している時に、聖霊様が彼に次のように語りました。

「あなたは、水が特定の場所に引かれると確信があるのか。」「はい。」と彼は答えました。

「それは、アリヤーの大路と同じである。私は創造の前からそれらを用意してきたのだ。」と主は言われました。

「では、なぜあなたは雑草や草を抜くのか？」

「水が流れるためです。」と、その果樹園のオーナーは答えました。

「あなたが、アリヤーの大路のための私からの導きを聞き、それに従うならば、障害物は取り除かれるだろう。そして、私の民は水のように流れるようになる。」と主は語されました。

これらのことばが語られるとすぐに、水道管理者からの電話があり、果樹園のオーナーが水門を開けて、水を通すことができる許可が下りました!

ヨシュアは心から主を信頼しました。なぜなら、彼は、人々が相続すべき土地に入つて行って所有することができるよう、神様が道を整えてくださっていることを知っていたからです。

祈りの課題:

- ✓ •ユダヤ人がアリヤーできるように。
- ✓ •教会が、ユダヤ人の相続地であるイスラエルへ帰還するのを支援するように。
- ✓ •主がユダヤ人を帰還させることによって、ご自身の御名を聖なるものとされるように。そして、これが主の御名の栄光のためとなるように!

祈り

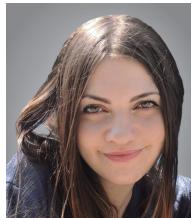


エンリケ・ポラス
ENRIQUE PORRAS
地区コーディネーター
アメリカ





イスラエル



サラ・ヒメネス
SARAH GIMENEZ
青年部
フランスコーディネーター

すばらしいホームカミング!

「それゆえ、今、あなたがたは立って、主が、あなたがたの目の前で行われる、この大いなる事を見なさい。」(第1サムエル12章16節)

ベン・グリオン空港 午後10時30分。緊張感が高まっています。何十ものユダヤ人家族が空港のカフェにいて、彼らの便の到着を待っています。すると突然喜びの叫び声が空港のロビーに響き渡ります。60人の新しい移住者が上陸したのです。そして大きな喜びが続きます。

こうして、何十年も会っていなかった家族が再会するのです。そこには、叫び、涙、笑いが起こります。回りにいる人たちはみな、私にこう聞きます。「これがアリヤーなんですか?彼らはどこから来たのですか?」

確かにこれがアリヤーなのです。なんというアリ



ヤーなのでしょう!もう何年も前から、エチオピアからのユダヤ人の流れは止まっているはずでした。しかし彼らは再び帰還しています。そして、親戚や家族と再会を果たし、イスラエルの社会を豊かなものとする準備をしているのです。最初のベータイスラエルアリヤー(モーセ作戦とソロモン作戦)が大規模に組織されている間、このアリヤーは慎重に進められていました。公式の式典や歓迎委員会なども組織されませんでした。

エベネゼル出エジプト作戦は、完全にアリヤーのために献身している働きです。イスラエルのエベネゼルボランティアの一人であるジャエルは、働きのパートナーであるボキア(統合センターで奉仕している)にプレゼントを手渡しました。その時、ジャエルはあふれる感情を抑えることがほとんどできませんでした。

喜びの表現は短いものでした。なぜなら新しい到着者たちは、すぐにバスに乗り込んで、イスラエル各地の様々はセンターに向けて出発しなければならないからです。そこにおいて、彼らはヘブライ語を学び、職を探し、またアパートを見つけることになります。ジャエルと私は、たった今日目撃したこの驚くべき出来事をに深く感動しました。

1週間後の午前11時。新しい移民の統合を専門としている軍事基地で行われているサル・エルプログラムのおかげで、私は、今北部イスラエルの軍事基地で公務にあたっています。12人のアリヤーしたばかりの若いエチオピア人たちが、軍事基地にいるとは、なんという驚くべきことでしょう!彼らはそこで3年間新しい故郷のために奉仕して、それから正式にイスラエル国民となるのです。

Operation Exodus

A ministry of Ebenezer Emergency Fund International



Ebenezer Operation Exodus
International & UK Office
PO Box 9103, Bournemouth
BH1 9DA, UK
+44 (0) 1202 294455
enquiries@ebenezer-ef.org
www.operation-exodus.org



エベネゼル緊急基金日本支部

〒062-8691 豊平郵便局私書箱37号
Tel&Fax: 011-813-3558 (岡田)
office@ebenezerjapan.org
<http://ebenezerjapan.org/>
郵便振替 (名称) エベネゼル緊急基金
(番号) 02710-0-55842



Operation Exodus USA
PO Box 568 Lancaster
NY 14086
Phone: 716 681 6300
info@ebenezerusa.org
www.ebenezerusa.org

Operation Exodus (出エジプト作戦)はエベネゼル緊急基金の実際的な働きの名称です。すべての国々からユダヤ人がイスラエルの地に帰還するように支援しています。彼らが約束の地に帰還するという神の計画と目的を宣言するべく1991年に3人の人から始まりました。

イギリス本部、アメリカ、スイス、ドイツを中心に国際的活動を展開し、さらにイスラエルを含めた25カ国に各国代表者と各国支部を配置しています。そして、旧ソ連諸国には実際的な働きのために、数多くの活動の拠点を設置しています。日本支部もその働きの一部です。